



# 神戸石炭訴訟の現状と脱石炭の市民運動

神戸の石炭火力発電を考える会



東冷 2022.2.1 住友倉庫  
神戸発電所3号機営業運転開始



裁判所

2022.4.26

神戸石炭行政訴訟控訴審判決

気候災害による人権災害と  
CO<sub>2</sub>排出を争う資格を認めず！！

# 大阪高裁判決の概要

- 国の温暖化対策について  
→「**さまざまな、大きな、重要な課題がある**」
- 国が掲げた2030年の温室効果ガスの削減目標(アセス時点で13年度比26%減、現在は46%減)  
→「**実現の具体的な道筋が示されているとはうかがえない**」
- CO<sub>2</sub>による気候変動の被害を受けない権利がある  
→「**個人の利益とまでは言えず、現時点で国際的、国内的に議論が成熟しているとも言えない**」(原告適格認めず)

今後、社会情勢の変化によって

個人的利益と承認される可能性を否定するものではない

→原告団は最高裁へ**上告**を決意 最高裁にて審理中



東冷

東冷

2022.4.28

倉庫

神戸発電所4号機 火入れ

# 日本初？ 気候変動訴訟ドラマを制作



神戸石炭訴訟  
Kobe Climate Case

ドラマ「温暖化で争えない？  
発電所稼働をめぐる国との裁判」



動画公開中

予告編、本編の2つを公開中



ドラマ予告編



ドラマ本編



2022.10.18  
神戸石炭民事訴訟 結審予定



## 気候再生のために【第5回】 ——石炭火力訴訟の意味は何か 江守正多(東京大学)

7/19 専門家証人として出廷し、証言した内容と出廷をめぐって考えたことが綴られている。

“「石炭火力の新設が許される社会は持続可能ではないのだから、システムを変えねばならない」というメッセージを国内外の社会に向けて発するという、極めて大きな意味があるのだと思うのです。”

# 地元 神戸新聞の連載記事 スタート！

**座礁資産**  
石炭火力を問う  
第1部「是認」

駅前通りから見える神戸製鋼の石炭火力発電所

神戸製鋼所(同市中央区)  
は2002年に石炭火力発電所1号機を、04年に2号機を稼働させ、今年2月、

## 巨大発電所住宅地に隣接

① 異様

それは、世界的にも珍しい光景だという。神戸市灘区のJR六甲道駅前。人が行き交う市街地の向こうに、2本の巨大な煙突と高新しい建屋がそびえる。人々の暮らしの400m南で、国内有数の規模を誇る石炭火力発電所が運転する。

市内全世帯・事業所の総排出量を大きく上回る。地球温暖化の要因とされるCO<sub>2</sub>を大量に出す石炭火力は、国際的な投資の世界では、将来、経済的価値を失う「座礁資産」とも呼ばれる。

3号機が運転を始めた。4号機も来年2月に稼働を予定する。4基が年間に排出するCO<sub>2</sub>は、失う「座礁資産」とも呼ばれる。

2022年(令和4年)  
9月18日  
日曜日

神戸新聞社  
〒650-8571  
神戸市中央区東川崎町1-5-7  
電話 (078) 362局  
報道部 7040 文化部 7044  
経済部 7094 販売局 7066  
運動部 7095 事業局 7086  
総務部 7047 印刷局 7081  
読者本部お客さまセンター  
078-362-7056  
月～金 10～17時 (土日祝休み)

購読・配達お問い合わせ 0120-16-8349 10～17時

総合	2.4
国際総合	3
からだ	5
オビニオン	6.7
スポーツ	8.9.10
文化	13
BS・ラジオ	13.14
くらし	14
子育て	17
囲碁・将棋	17
教育	19
わがまち	20.21.22.23
小説「リベアラー」	17

社説 6面 米同時テロ21年  
取材が早く100年の誌

わずか400m、神鋼 相次ぎ稼働  
大量のCO<sub>2</sub> 脱炭素に逆行

神戸製鋼所の石炭火力発電所を巡る主な動き  
1995年1月|阪神・淡路1線開通

9/18 朝刊一面  
神戸発電所を問う連載記事がスタート。

第一部「是認」から5回の連載終了。

全文、WEBにて掲載  
<https://www.kobe-np.co.jp/rentoku/mirai-zenin/>